

寄り添う政治を。  
一人ひとりに

そ世  
だ田  
ち谷

# つるみけんご

世田谷区議会議員

無所属

通信  
Vol.27



こんにちは。  
この度はつるみけんご通信Vol.27をお手に取って頂き、誠にありがとうございます。  
本通信では、世田谷区議会令和6年第2回定期例会における一般質問の内容をまとめました。お読み頂けましたら幸いに存じます。

## 質問

## 世田谷の子ども達の学校給食は安全ですか？

～子ども達が安心して食べられる給食を～

**質問の要旨** 5月27日に区内8校に給食を提供している太子堂調理場内で、異物混入が発生したことが区から区議会に報告されました。

子ども達の学校に届けられる前に調理場内で発見されたことは不幸中の幸いではありますが、子ども達の食の安全が脅かされた事実は極めて重く受け止めなければなりません。

区に対し、徹底的な原因究明と再発防止策を求めました。

さらに、本事案について、区から区議会に報告があったのは発生から3日後でした。問題が発生した際には、区民・議会に迅速かつ的確な情報提供を行うことは区の当然の責務です。区は事態の重大さを十分に認識できていたのでしょうか。さらに報告の内容が不十分であったことを指摘しました。

**この度の給食異物混入問題について、混入した「異物」とは何か、異物混入の原因は何か、また、これまでに同様の事案が発生したことがあるか、あるとすれば、その際にどのような再発防止策が取られたのか、併せて、区民・議会への公表について改めるべき点はないか、区の認識を問い合わせました。**



## 世田谷から未来を変える。

特定の団体や企業のためではなく、しがらみのない立場で、本当に困っている人の声を受け止められる”一人ひとりに寄り添う政治”的実現を目指して「つるみけんご」は、活動を続けます。

### 鶴見健悟プロフィール

- 1986年(昭和61年)  
10月12日生まれ 37才
- 世田谷区立駒沢保育園、駒沢小学校、駒沢中学校、東京農業大学第一高等学校、東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科卒
- JA東京中央会 元職員
- 衆議院議員 長妻昭 元秘書
- 公務員試験専門 喜治塾 元講師
- 2019年世田谷区議会議員に初当選(得票数4,491票)
- 現在2期目

区民生活常任委員会  
DX・地域行政・公共施設整備等推進特別委員会



つるみけんごは  
“認知症サポーター”です！

### 第二回定期会 録画配信

本通信では内容を一部抜粋し、掲載しております。議会の様子はこちらから動画でご覧いただけます。

一般質問動画



### 教育委員会の答弁の要旨

5月27日、太子堂調理場内において、調理中の米の中に異物、虫の一部が混入したため、一定期間、献立変更を行った。4月にも同様の事案があり、害虫駆除を実施し、さらに清掃・点検作業を行った。ご迷惑をおかけしたことを深くお詫びする。今回立て続けに混入が発生したため、機器を解体・洗浄し、部品交換、薬剤散布等を行うこととした。

保護者への通知は行っていたものの、区議会に速やかな情報提供ができていなかったことを深く反省している。



### つるみけんごコメント

今回の質問で、4月にも同様の事案が発生していたことが明らかになりました。立て続けに子どもの食の安全を脅かす事案が発生していたことは看過できません。

このような問題が発生した際には、迅速かつ的確に情報を開示することが、現場における安全への意識を高め、結果として食の安全性を守ることにつながります。子ども達の食の安全が守られるよう、今後の対応も注視してまいります。

### 政治を志す若者・学生の皆様へ

政治にご関心のある方のご連絡をお待ちしています。ともに“政治のあるべき姿”・“地域のあるべき姿”を考えていきましょう！インターン・ボランティアでお手伝い頂ける方のご連絡もお待ちしております。

TEL.03-6322-0575（事務所）

E-mail: kengo@k-tsurumi.net



## 質問

# 世田谷の防災計画は区民の命を守れるのでしょうか？

～区民の命を守るために、地区からの組み立て直しを～

## 質問の要旨

世田谷の行政区域として最小の単位である「28の地区」は、まさに私たち区民の「生活の場」です。この「地区」という単位から防災計画を作成し、それをもとに世田谷全体の防災計画を組み直していくことが、よりきめ細かな災害対策を可能とし、区民の生命と財産を守ることにつながるものと考えます。

区は、地区の防災計画を含めた世田谷地域防災計画の修正を今年度中に行う予定です。

今年度の「世田谷区地域防災計画」の修正に当たり、地区を災害対応の基本と考えることについて、区としてどのような認識を持っているのか、併せて、地区における提案を区全体の地域防災計画へ反映する手法について、どのような工夫を考えているのかを問いました。



## 質問

# 区の認知症施策は将来を見据えたものになっているのでしょうか？

～現状を的確に把握し、科学的な視点で認知症施策の組み立て直しを～

## 質問の要旨

本年5月8日に行われた政府の認知症施策推進関係者会議において、認知症及び軽度認知障害MCIの患者数について新たな推計が示されました。

今回の推計では、2025年時点での認知症の患者数は471万6千人と推計され、約700万人とされていたこれまでの試算に比べ、3割以上も減少しました。

一方で、認知症の予備軍とされる軽度認知障害MCIの患者数は増加しており、専門家は、「生活習慣病の改善、健康意識の変化などにより認知機能低下の進行が抑えられ、認知症の有病率が下がった」との見解を示し、MCIから認知症へ症状が進行する人の割合が低下した可能性を指摘しています。

ひるがえって、区の「認知症とともに生きる希望計画」は、これまでの推計である認知症患者数約700万人ということを前提として策定されており、国の推計に大きな変化があったことを踏まえ、区としてその前提となる数値や現状を的確に把握し直し、科学的な視点に基づいた政策展開をすることが必要と考えます。

認知症政策においては、認知症であってなくても、区民一人ひとりが、高齢者になってからの生活に楽しさや豊かさを描けるような地区・地域をあらかじめ創り出しておくことが、結果として、認知症の発症を遅らせ、進行を緩やかにし、区民一人ひとりが豊かな老後を実現するだけでなく、社会的な費用を低減することにもつながります。

このような観点から、認知症政策には認知症になってからの介護や医療等にかかる費用など「当面の対応に必要な費用」と、さらに新たな視点として「予防的な投資」の費用も含まれていると考えられます。

## 区の答弁の要旨

地域住民や関係団体との意見交換を行なながら、地区の特性を踏まえた計画として修正していく。発災時に一人でも多くの命を救うためには、近隣住民同士の助け合いが不可欠であり、地域特性に応じた自助・共助の活動が災害対策の基盤となるものと認識している。こうした認識のもと地区防災計画の修正の取り組み等を踏まえながら、区全体の計画である地域防災計画の修正を進めていく。



## つるみけんごコメント

自助・共助はもちろん大切です。しかし、区、つまり「公(おおやけ)」が「自助・共助」を強調し過ぎることには、違和感を覚えます。災害対応では、行政が担う「公助」と私達が担う「自助・共助」がバランスよく機能することが大切です。区には、区民の命を守ることへの責任感が足りないのではないでしょうか。

引き続き、計画修正を含め、今後の区の防災への対応に注目し、「公助」の役割の明確化をはじめ、区民の命を守る災害対策に取り組んでまいります。

## 質問

# 区の認知症施策は将来を見据えたものになっているのでしょうか？

～現状を的確に把握し、科学的な視点で認知症施策の組み立て直しを～

## 質問の要旨

本年5月8日に行われた政府の認知症施策推進関係者会議において、認知症及び軽度認知障害MCIの患者数について新たな推計が示されました。

今回の推計では、2025年時点での認知症の患者数は471万6千人と推計され、約700万人とされていたこれまでの試算に比べ、3割以上も減少しました。

一方で、認知症の予備軍とされる軽度認知障害MCIの患者数は増加しており、専門家は、「生活習慣病の改善、健康意識の変化などにより認知機能低下の進行が抑えられ、認知症の有病率が下がった」との見解を示し、MCIから認知症へ症状が進行する人の割合が低下した可能性を指摘しています。

ひるがえって、区の「認知症とともに生きる希望計画」は、これまでの推計である認知症患者数約700万人ということを前提として策定されており、国の推計に大きな変化があったことを踏まえ、区としてその前提となる数値や現状を的確に把握し直し、科学的な視点に基づいた政策展開をすることが必要と考えます。

認知症政策においては、認知症であってなくても、区民一人ひとりが、高齢者になってからの生活に楽しさや豊かさを描けるような地区・地域をあらかじめ創り出しておくことが、結果として、認知症の発症を遅らせ、進行を緩やかにし、区民一人ひとりが豊かな老後を実現するだけでなく、社会的な費用を低減することにもつながります。

このような観点から、認知症政策には認知症になってからの介護や医療等にかかる費用など「当面の対応に必要な費用」と、さらに新たな視点として「予防的な投資」の費用も含まれていると考えられます。

## 区の答弁の要旨

現在、区が取り組んでいる様々な認知症施策が、このことに對し、どのような効果を及ぼすことを見込んでいるのか、長期的な投資効果の高い認知症施策についての認識と今後の施策展開の展望について、区の考えを問いました。

## 区の答弁の要旨

認知症であってなくとも、地域とのつながりを持ちながら、自分らしく暮らすことは認知症の発症や進行を遅らせるなど、様々な良い効果をもたらすものであることから、「認知症とともに生きる希望計画」において「本人発信・社会参加の機会拡充を特徴的な取り組みとして位置付けている。加えて、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる認知症パリアフリーの推進や健康の保持増進など地域共生社会の構築に向けた様々な観点から取り組みを進めていく必要があると認識している。

今後も関係機関や府内の関係所管と連携し、長期的な視野に立って認知症施策を総合的に推進していく。



## つるみけんごコメント

国による推計値が大きく変化したことを捉えて区がどのような施策の組み立て直しをしてくるのか、今後の動きに注目しています。

認知症施策は高齢者施策と見られがちですが、介護離職、介護負担の増加、若年性認知症など、実は私たち働く世代にとても重要なテーマです。

人は誰でも年を取りますが、安心して年齢を重ね、住み慣れた地域で楽しく、心豊かに暮らせる世田谷を皆様とともに創っていきたいというのは、私(つるみけんご)の大きな目標の1つです。

## つるみけんご事務所

〒154-0003 東京都世田谷区野沢4-14-4

TEL.03-6322-0575

E-mail: kengo@k-tsurumi.net URL: http://k-tsurumi.net

つるみけんご  
日々の活動  
発信中

